

今月のトピックス

『津島の浮世絵版画』

-江戸・明治期の津島版画集成-

江戸時代以降、「津島神社」やその祭礼「尾張津島天王祭」を描いた屏風絵や版画が多く生み出されました。とりわけ江戸中期に津島の団扇（うちわ）屋が版画を絵団扇に加工して販売すると、これが土産物として大変な人気を集めたといえます。

明治後期、団扇業が衰退すると、津島の版画も次第に衰え散逸しましたが、2000年以降、当館に版画の寄贈や情報提供が相次ぎました。このため、当館では地方版画史の研究はもとより、津島の歴史文化や観光業を考える一助になればと、江戸・明治期の版画を網羅的に収集掲載した『津島の浮世絵版画』を刊行しました。

図書館企画展示

『図書館所蔵古銭から見た元号 -古銭から元号を考える-』

*図書館入口の展示コーナーにて開催中



5月より平成から令和へと元号が変わります。これに関連し、図書館では所蔵している古銭から元号について考えてみたいと思います。江戸期に多く流通した「寛永通宝」等の元号銭を始め、交易によって輸入された「明銭」「宋銭」等の中国銭も展示しています。

また、元号や古銭の奥深さ、それにまつわる逸話などもパネル等でご紹介します。

令和

新しい元号「令和」は、日本最古の歌集『万葉集』の「初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす」という歌を典拠としています。それにちなみ、万葉集や元号にまつわる本をご紹介します。

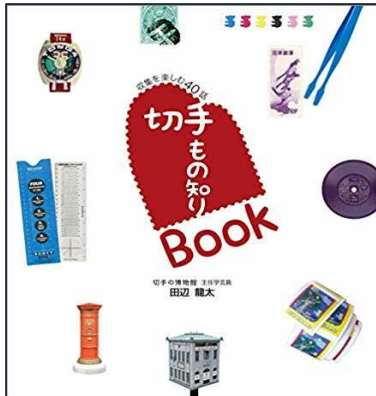
コーナー8「ありがとう平成。」にて、特集しています。



- 『元号 年号から読み解く日本史』 所 功・久禮 旦雄・吉野 健一/著 210.0 ト
- 『皇室入門』 椎谷 哲夫/著 幻冬舎 288.4 シ
- 『楽しくわかる万葉集』 中西 進/監修 ナツメ社 911.1 タ
- 『元号 全247総覧』 山本 博文/編著 悟空出版 210.0 ヤ
- 『万葉集入門』 神野志 隆光/監修 平凡社 911.1 マ
- 『平成から大化まで全元号解説』 河野 浩一/著 KADOKAWA 210.0 カ

新 着 図 書

『切手もの知りBOOK』 田辺 龍太/著 郵趣サービス社 693.8 円



切手は昔から、その当時の世界情勢を物語り、産業技術の発展を示し、宣伝媒体としても活用されてきました。そして、「小さな芸術品」といわれるようにアート作品としての美しさも兼ね備えています。さまざまな側面を持っているからこそ、使ったり、集めたり、鑑賞したり、調べたりするのが楽しいアイテムなのでしょう。本書では、切手のサイズや額面、種類、目的から、特殊印刷の切手、収集の方法、消印からポストに至るまで、切手にまつわるあらゆる知識が豊富に詰まっています。奥深い切手の世界を覗いてみませんか。

ベストリーダー

先月の利用の多かった本をご紹介します

- 『東海温泉の達人』 ← 達人が惚れ込んだ至福の名湯案内。温泉街の解説や入浴前に読むコラムも掲載。
- 『圓朝』 奥山 景布子/著 ← 幕末・明治の芸能を代表する近代落語の祖・三遊亭圓朝の伝説的な一代記。
- 『フェルメール』 植本 一子/写真・文 ← 世界各国の美術館を旅して35の現存作品を撮り下ろした美術書。
- 『名古屋と明治維新』 羽賀 祥二/編著 ← 明治維新から150年。変革期を迎えた尾張名古屋の歴史を読む。
- 『海苔と卵と朝めし』 向田 邦子/著 ← うまいもの好きで知られる著者の食いしん坊エッセイ傑作選。
- 『美智子さま』 渡邊 みどり/監修 ← ご成婚当時から取材を続けてきた皇室ジャーナリストのコラム。
- 『冥界からの電話』 佐藤 愛子/著 ← 95歳の著者が実体験から伝える死後の世界の真実。
- 『地面師』 森 功/著 ← 不動産のプロが騙された詐欺集団の複雑で巧妙すぎる手口の実態を探る。
- 『おいしい珈琲を自宅で淹れる本』 富田 佐奈栄/著 ← 豆選び、挽き方、淹れ方、道具まで徹底解説。
- 『昭和少年少女ときめき図鑑』 市橋 芳則ほか/著 ← 昭和30～40年代の少年少女が憧れた暮らしとは？

図書館のホームページをご利用ください

本の検索や、行事などの予定、図書館員のコラム（「図書館だより」）など、ほぼ毎日更新しています。スマートフォン向け検索画面もでき、より便利になりました！ キーワードは「津島市立図書館」。

<http://www.lib.tsushima.aichi.jp/>

休館日

28日(火)(毎月第4火曜日)

津島市立図書館

〒496-0854 津島市老松町1-1

電話 (0567) 25-2145

